

# 2015年度教師海外研修(エルサルバドル) 研修報告書

学校名	愛知県立半田高等学校	氏名	樋口 耕平
-----	------------	----	-------

## 1. 現地研修に対する各自の目的 とその達成度

### (特に、現地研修の経験を生かす授業実践に資することについて)

英語の教員として普段授業などで海外の話をすることも多く、興味深いことに生徒の異文化に対する関心は意外と高い。このこと自体は私自身も前向きに受け止めている。ただ、外国の様子や文化について話することはできても、外国の人たちが実際に感じていることや将来のビジョンなどといった、価値観に迫るような内容はこれまでできずにいた。高校卒業後、いまよりもっと広い「社会」という文脈のなかで生きていく生徒たちにとって、外国人のリアルな感覚に触れ、自身のそれと比較することはとても有意義であるとして、本研修の最大の目的として定めた。具体的には「自国の誇り」や「何をしているときが一番楽しい」といった質問をした。回答のなかには、概ね予想できたものや日本の高校生が想像しないような答えもあり、内容は多岐に渡った。このインタビューの共有が生徒の異文化理解及び自己理解につながるものであると期待している。

## 2. 訪問国から学んだこと (気づいたこと、わかったこと、大切に思ったことなど)

### (1) 柱1「訪問国に肯定的に出会う」という観点から

学生時代に中南米のことについて勉強する機会があり、また中南米諸国出身の知人たちがとても気さくで楽しい人ばかりだったという理由だけで、漠然とではあるが、この地域に対してとてもいい印象を抱いていた。今回、各訪問地へ向かう道中ではどこも銃を抱えた警備員がおり、建物の塀には有刺鉄線がぐるぐる巻かれ、その光景を見る度にうっすら緊張感を覚えずにはいられなかった(ほぼ毎日見ていたが)。しかし、実際に人々と接すると、とても穏やかで真面目な人ばかりで、いつも良い意味で期待を裏切ってくれていた。激しい内戦の過去や人々の生活を不安にさせるギャングの存在は、この国に暗い影を落とすばかりであるが、このような温かく勤勉な人々が協力し合うことで今後さらに発展していくことを心から願っているし、日本にいてもその動向に注目していくつもりである。

### (2) 柱2「日本と訪問国とのつながりや同一性を理解する」という観点から

「エルサルバドルの人々は勤勉である」という情報は、本やインターネットなどで割りと簡単に得ることができる。実際に現地の人々と接してみると、仕事への思いを話しているときの内容はもちろん、表情や仕草を見ても、日々仕事と一生懸命向き合っているという雰囲気を感じ取ることができた。

エルサルバドルは中米に位置しているということで、陽気で情熱的なラテンの街という先入観を勝手に抱いたものだが、実際に人々と接してみると非常に穏やかで優しい人ばかりであった。いわゆる「ラテン系のノリ」というものはあまり実感しなかった。滞在期間がもっと長ければ、感じる点はもっとあったと思われるが、日本とエルサルバドルは、物質的なつながりや同一性はあまり多くないと思う。だが、人々の気質という点においては、両国はとても似たものがあると感じた。

### (3) 柱3「共通の課題について共に考え・共に越える」という観点から

エルサルバドルの学校訪問では、子どもたちの無邪気な姿にとにかく心を動かされた。学年が上がるにつれ、

多様な事情で学校をドロップアウトする生徒が増えるという課題はあっても、何でも一生懸命やって、腹の底から大笑いしている姿をいつも見られることは、教員として本当に幸せだと思う。恐らく、子どもは世界中どこでも一緒なんだろう。生まれてからどんな環境で育つか、どんな大人（教師）に出会うかで人生は大きく変わる。国としての課題は、国によってさまざま。しかし、教育に関する課題を考えれば、どの国においても最終的には「目の前にいる生徒にいかにか前向きなインスピレーションを与えるか」という課題に概ね辿り着くのではないか。

今回の学校訪問を通じて、教員としての姿勢を再考するきっかけを得られた。国を作るにはまず人を作ることから。その責任の重さを痛感するとともに、醍醐味も実感できた次第である。

### 3. JICAの国際協力事業の「良い！と思ったところ」と「今後あるといいなと思う視点」

良い点・・・現地の人々と協働して各プロジェクトを実行している点である。開発援助というと、ノウハウを一方向的に伝えているというようなイメージを抱きがちだが、実際には日本が積み重ねてきたノウハウを現地の文脈に合わせて伝えており、共に悩みながらも前向きに活動している両国の人々の姿もまた非常に印象的だった。一緒に活動を続けることは、相互理解にもつながると思う。国際協力事業において、このような「共に考える」という姿勢は、まずは個人レベル、最終的には国家レベルで両国の信頼関係をさらに円滑にするものであると感じた。

今後あるといいなと思う視点・・・世界で活躍する日本人の様子をもっとメディアを通じて多くの人に伝える必要はあるかと思う。何事もまずは関心を持たせることは大切だと思う。夢を持つことが苦手な人が多い昨今の世の中で、こうして前向きに頑張る日本人の姿を伝えることは、ただ外国への関心を深めるだけでなく、多くの示唆を与えてくれるものであると思う。

### 4. 訪問先ごとの「感じたこと」や「学んだこと」

※別掲

### 5. 印象に残る写真2点 とその解説

●写真1・・・ [ATS\_1472]

◇キャプション：cesta de frutas!

◇解説文：小学生たちのキラキラした目に完全に心を打たれた。交流授業ではフルーツバスケットで遊びました。前日の夜に眠い目をこすりながら、ルール説明のスペイン語のフレーズを猛勉強した甲斐があった（笑）。



●写真2… [HGT\_6401]

◇キャプション：気持ちを切り替えて国家斉唱！

◇解説文：訪問した各学校の歓迎セレモニーでは、必ず国家斉唱があった。それまでワイワイ騒いでいた子ども達も前奏が始まると全員胸に手を当て、キリッとした表情で歌ってくれた。あのギャップがいつも楽しみであった。



## 6. 来年度参加する先生へのアドバイス（持ち物、必要な準備、学びの視点、注意事項など）

すべての日程を有意義にするためにも体調管理は大切です。なかなか忙しい毎日でしたが、次の日を元気いっぱい過ごすためにも夜は早く寝ましょう。

## 7. その他全般を通じての感想・意見など

たくさんの出会いを提供していただき感謝している。本当に多様な訪問地に行くことができ、穏やかで優しいエルサルバドルの人々や異国の地で奮闘する日本人の皆さんとお話しできたことはとても良い経験になった。訪問するだけなら旅行でもできるが、そこにいる人々とじっくり話をするができるのが、この研修の最大の魅力の一つだと思う。

以上